

ビワ生育情報

千葉県
平成25年2月号

平成25年1月の気象

平成25年1月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は第5半旬を除く5半旬で平年を下回り、月平均気温は5.0℃で、平年より0.9℃低く、前年より0.6℃高かった。また、全ての半旬で氷点下を記録し、氷点下日数の月合計は18日で、平年より7.9日、前年より1日多かった。

最低極温は第5半旬を除く5半旬で平年と同じか下回ったが、幼果が寒害を受ける-3℃以下を記録した日はなく、前年の1月6半旬並みの強い寒波はなかったようである。しかし、館山測候所では1月19日に-3.6℃を記録し、場所によっては幼果が寒害を受ける気温まで低下したと思われる。

降水量は第3及び第5半旬を除く4半旬で降雨がなかった。月合計は75mmで、平年より16mm(18%)少なく、前年より21mm(39%)多かった。

日照時間は第4及び第6半旬を除く4半旬で平年を下回った。月合計は156時間で、平年より13時間(8%)少なく、前年より42時間(37%)多かった。

表1 平成25年1月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	気温(℃)			氷点下日数(日)			最低極温(℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	5.7	6.7	6.4	3	1.2	1	-1.9	-0.4	-0.1
2	4.7	6.2	4.8	4	1.5	2	-2.4	-0.9	-0.9
3	5.5	5.8	4.5	1	1.8	4	-1.4	-1.4	-0.9
4	3.7	5.8	4.2	4	1.6	2	-2.2	-1.2	-2.5
5	6.6	5.6	4.5	1	1.8	2	-0.4	-2.1	-0.9
6	4.3	5.8	2.5	5	2.3	6	-2.1	-2.1	-3.3
平均/計/最低値	5.0	5.9	4.4	18	10.1	17	-2.4	-3.4*	-3.3

※：1月の過去39年間の最低極温の平均

表1 (つづき)

半旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	0	25	1	24	27	21
2	0	11	0	24	27	18
3	46	17	0	24	27	23
4	0	8	4	28	27	11
5	30	10	50	22	27	11
6	0	21	0	35	34	31
合計	75	91	54	156	169	114

3月の作業(花房の発育は次ページ)

ビワは厳寒期を過ぎて春が近づくと、枝葉の伸長が始まり、果実の肥大が急速に進む。

しかし、春先は夜間に冷え込むことがあり、3月中旬頃までは寒波の襲来に注意する。3月になると台木の芽が動き始めるので、接ぎ木は3月中に行う。また、摘果や袋掛けは寒波の襲来がなくなった頃から始める。

摘果・袋掛け

3月以降の寒波の襲来がなくなる頃を見計らって、寒害を受けにくい園から摘果・袋掛けの作業を始める。

標準的な着果程度は1果当たり20枚の葉が必要である。摘房が十分でない樹は最終的な着花房率が60%になるように摘房する。1果房に残す果数は1～3果で、着果房数が多い樹では1果房に1～2果残すが、着花房数が少ない樹では収量を確保するために多めに着果させる。しかし、3果以上着果させると果実が小さくなることがある。

接木

接木の適期は、台木の芽が動き始める2月下旬～3月中旬であり、天気の安定した時期を選んで行う。気温の低い日に作業すると、接木した苗の活着率が低下する。4月に入ると切り口から樹液の溢出が多くなり、接ぎにくくなるので、3月中に終わらせる。台木は接木部の直径が1.5cm以上のものを用いる。太いものほど活着後の生育はいいが、あまり太いものは取り扱いに不便である。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表2に示した。暖地園芸研究所の開花始期（1花房内の蕾の10%が開花）は、「楠」が11月23日で、平年より14日、前年より17日遅かった。「大房」は12月14日で、平年より19日、前年より25日遅かった。「田中」は11月23日で、平年より10日、前年より12日遅かった。

開花盛期（1花房内の蕾の50%が開花）は、「楠」が12月5日で、平年より6日、前年より19日遅かった。「大房」は12月30日で、平年より8日、前年より23日遅かった。「田中」は12月7日で、平年より1日早く、前年より16日遅かった。

開花終期（1花房内の蕾の90%が開花）は、「楠」は12月17日で、平年より13日早く、前年より19日遅かった。「田中」は12月17日で、平年より28日早く、前年より13日遅かった。2月1日現在、「大房」は開花終期に至っていない。

本年は、残暑が長引いた影響で花房の発現が遅く、開花の進みが遅れていたが、「楠」及び「田中」は開花期間が短く、平年より早く開花が終わった。1月には寒波があり、開花が早かった花房を中心に寒害を被ったと考えられる。花房の充実はやや不良だが、樹の生育は良好である。

表2 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11.23	11.9	11.6	12.5	11.29	11.16	12.17	12.30	11.28
大房	12.14	11.25	11.19	12.30	12.22	12.7	—	1.31	1.1
田中	11.23	11.13	11.11	12.7	12.8	11.21	12.17	1.14	12.4

平年：1982年（昭和57年）～2011年（平成23年）の30年間の平均

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】
※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>